

2022年3月22日

(仮称) 宗谷管内風力発電事業

計画段階環境配慮書に関する意見書

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

公益財団法人 日本自然保護協会

理事長 亀山 章

(仮称) 宗谷管内風力発電事業（事業者：株式会社ユーラスエナジー、総出力：約 60 万 kW、120～150 基程度）実施想定区域内には、オジロワシ、クマゲラなどの鳥類、テシオコザクラなどの絶滅危惧植物の生息が予想される。また周辺には既設の風力発電施設が複数存在しているのに加えて、大規模な風力発電事業が複数計画されており累積的な自然環境への影響が多大になると懸念される。

このようなことから、本事業による自然環境への影響が十分に回避できない場合には、事業の撤回も含めて検討すべきである。

1) 生物多様性保全上の重要な地域が含まれている

本事業実施想定区域内には、一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパンによって生物多様性保全の鍵になる地域（KBA）に指定されている猿払、サロベツ川・天塩川の 2 か所が含まれている。2030 年までに世界の陸域・海域の少なくとも 30%を保全・保護することを目指す生物多様性に関する新たな世界目標「30 by 30（サーティー・バイ・サーティー）」が推進されている中で、計画段階とはいえ、このような生物多様性保全上重要な場所での大規模な開発行為の検討をおこなうべきではない。

2) 鳥類への影響

本事業実施想定区域ではハヤブサ、オジロワシ、チュウヒなどの希少猛禽類だけでなく、クマゲラ、オオジシギといった希少鳥類が生息していると考えられ、風車によるバードストライクが強く懸念される。環境省作成の陸域版センシティブティマップにおける注意喚起メッシュ図では、重要種があり、かつその集団飛来地が重なっている A1、A2 のメッシュが含まれており、鳥類への影響が強く懸念される。そもそも配慮書段階とはいえ、このような生物多様性の喪失をもたらす可能性が高い地域を、事業想定区域に含めて検討を行うべきではなく、事業者の環境配慮への姿勢のあり方が疑われる。

3) 日本を代表する周氷河地形の改変

宗谷丘陵の北部は最終氷期に凍結－融解作用を受けた周氷河地形が卓越し、「日本の地形

レッドデータブック第2集－保存すべき地形－」（小泉武栄・青木賢人（編）、2002年、古今書院）において「宗谷丘陵の周氷河性波状地」として掲載されている。本事業は「宗谷丘陵の周氷河性波状地」の約57.9%の範囲が事業予定地に含まれており、新たな作業道の建設などにより日本を代表する周氷河地形の改変が危惧され、「宗谷丘陵の周氷河性波状地」のエリアを事業地から外すべきである。

4) 哺乳類への影響

本事業実施想定区域には、環境省のレッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類（VU）のトウキョウトガリネズミ、メホオヒゲコウモリ、ウスリホオヒゲコウモリなどの哺乳類が生息しており、本事業の実施により、これらの絶滅危惧種への影響が懸念される。特にトウキョウトガリネズミは本事業実施想定区域の草原や草地などに生息しているが、国内では北海道に局所的に分布するのみであり、本事業実施にあたってはその影響を最大限に考慮すべきである。

5) 重要な植物群落、植物種への影響

本事業実施想定区域には、環境省の学術上重要な群落の特定植物群落である声間ミズナラ矮性林・トドマツ林、東浦（宗谷丘陵）自然林、東浦トドマツ林、北大天塩地方演習林蛇紋岩地帯アカエゾマツ林、猿払川中流の湿原が含まれ、さらには稚内市の天然記念物である目梨高山植物群落も含まれている。また、環境省のレッドリストにおいて絶滅危惧ⅠA類（CR）のミヤマハナワラビ、北海道のレッドリストにおいて絶滅危惧ⅠA類（CR）のヤチランやエゾセンノウ、テシオコザクラなど絶滅危惧植物が多数自生し、特に幌延町の町花であるテシオコザクラは、天塩川流域の蛇紋岩地の一部にしか分布していない植物である。それにも関わらず幌延町内のテシオコザクラの分布推定エリア全域が本事業実施想定区域に含まれている。環境影響配慮書段階でも、生物多様性保全上重要なことが明白な場所を計画地に入れている事業者の生物多様性に対する見識を疑わざるをえず、重要な植物群落や絶滅危惧植物の生息地は事業実施エリアに含むべきではない。

6) 累積的影響

本事業実施想定区域の周囲には、複数の風力発電事業および計画が存在する。特に本事業者である、株式会社ユーラスエナジーはユーラス宗谷岬ウインドファーム、天北ウインドファームを既に稼働させており、さらには、川南ウインドファーム、（仮称）留萌北部（沿岸）広域風力発電事業、（仮称）抜海・豊田風力発電事業を計画している。本事業は、これらの既存の事業および計画中の事業と相まって自然環境へ累積的な影響を発生させる恐れがある。特にオジロワシなどカムチャッカ半島からの渡り鳥のルートであり渡来地でもあるため、個体群への影響が強く懸念される。詳細な事業区域選定は、少なくとも既設の風力事業および同社が計画中の風力事業の累積的な影響を加味して行うべきである。

以上